

11年3月期 通期 決算説明会資料

本日の説明内容

1. 会社状況
2. 販売情報

2011年5月27日

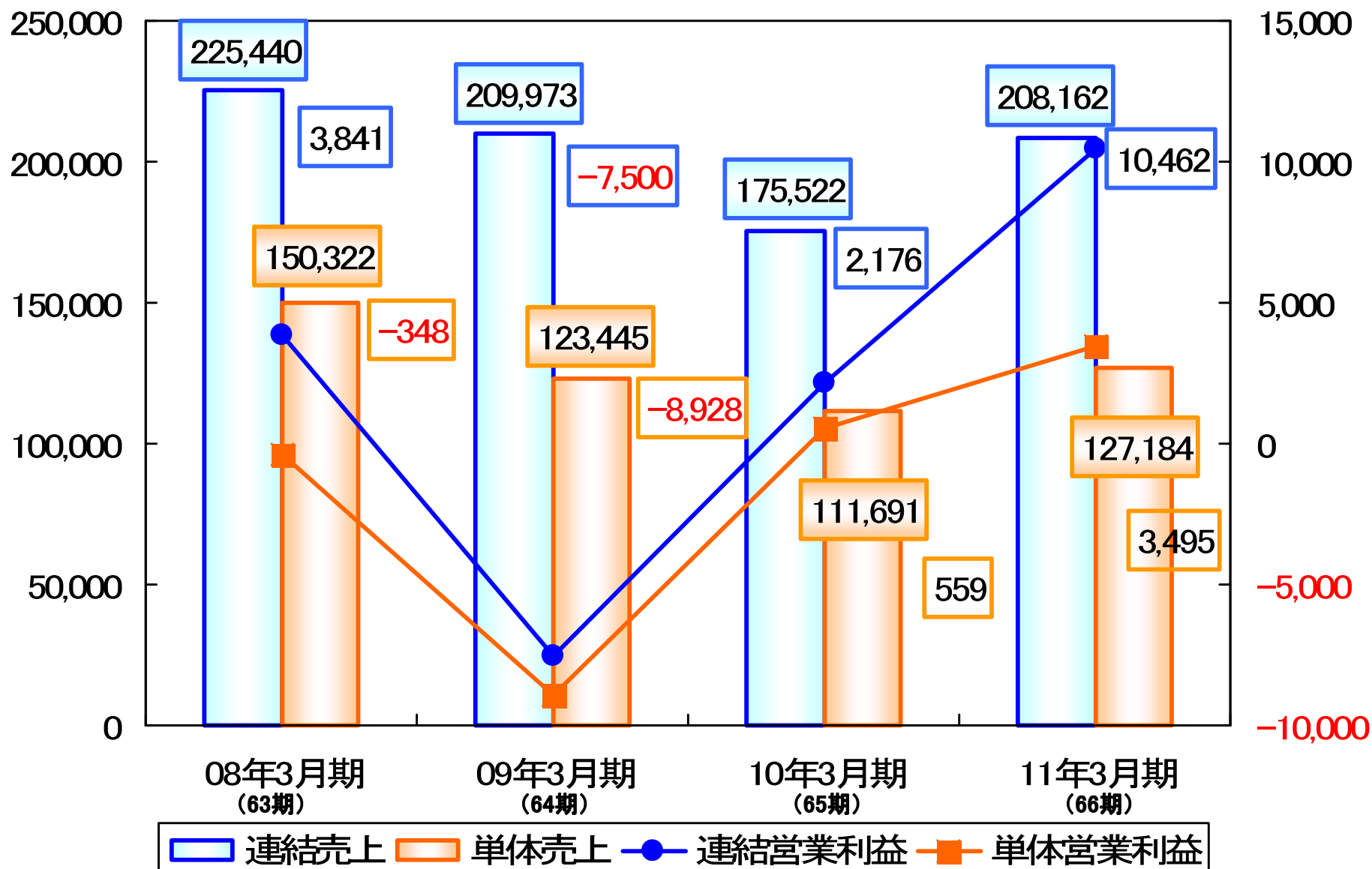
株式会社 **mitsuba**

会社状況

1. 業界動向
2. 11年3月期 通期の状況
3. 第9次中期計画

《連結単体売上 営業利益推移》

単位：百万円



1. 業界動向

(1) 販売実績 《四輪車》

単位:万台

【四輪】	08年3月期 実績	09年3月期 実績	10年3月期 実績	11年3月期 実績	増減 (前期比)
日本	532	470	488	460	▲28
米州	2,288	2,035	1,725	1,887	+ 187
欧州	2,278	2,160	1,853	1,773	▲65
アジア	695	666	692	852	+ 162
中国	879	938	1,364	1,806	+ 442
その他	199	209	196	222	+ 9
グローバル	6,871	6,478	6,318	7,000	+ 682

注:日本以外は1-12月

* 米州:13カ国
* 欧州:36カ国

(2) 生産実績 《四輪車》

単位:万台

【四輪】	08年3月期 実績	09年3月期 実績	10年3月期 実績	11年3月期 実績	増減 (前期比)
日本	1,179	999	887	899	+ 13
米州	1,939	1,710	1,261	1,681	+ 409
欧州	2,260	2,138	1,632	1,924	+ 229
アジア	944	958	859	1,160	+ 284
中国	888	927	1,379	1,827	+ 447
その他	187	185	175	226	+ 27
グローバル	7,397	6,917	6,194	7,770	+ 1,462

注:日本以外は1-12月

* 米州:13力国
* 欧州:36力国

(3) 販売実績 《二輪車》

単位：万台

【二輪】	08年3月期 実績	09年3月期 実績	10年3月期 実績	11年3月期 実績	増減 (前期比)
日本	66	50	37	38	+ 1
グローバル	4,273	4,629	4,444	5,096	+ 616

注：日本以外は1-12月

* 米州：13カ国
* 欧州：36カ国

(4) 生産実績 《二輪車》

単位:万台

【二輪】	08年3月期 実績	09年3月期 実績	10年3月期 実績	11年3月期 実績	増減 (前期比)
日本	156	108	60	59	▲ 1
米州	196	227	174	192	+ 18
欧州	158	145	98	96	▲ 2
アジア	1,834	2,049	1,913	2,509	+ 442
中国	1,861	2,048	2,083	2,080	▲ 3
その他	200	195	291	310	+ 9
グローバル	4,405	4,772	4,619	5,249	+ 630

注:日本以外は1-12月

* 米州:13力国
* 欧州:36力国

2. 11年3月期 通期の状況

(1) 11年3月期 通期 連結経営成績

単位：百万円

【連結】	10年3月期実績	11年3月期実績	増減
売上高	175,522	208,162	+ 32,640
営業利益	2,176	10,462	+ 8,286
経常利益	1,874	9,445	+ 7,571
当期利益	▲ 3,247	3,655	+ 6,902

概要		単位：百万円				
売上高	日本	97,800 ⇒ 105,548 (+ 7,748)		欧州	6,594 ⇒ 7,925 (+ 1,331)	
	米州	34,412 ⇒ 44,716 (+ 10,304)		アジア	36,715 ⇒ 49,972 (+ 13,257)	
営業利益	日本	1,097 ⇒ 4,298 (+ 3,201)		欧州	▲174 ⇒ 99 (+ 273)	
	米州	▲1,828 ⇒ 897 (+ 2,725)		アジア	3,011 ⇒ 5,140 (+ 2,129)	
経常利益	■営業外収益 + 2,444百万円 (持分法投資損益 753百万円、受取利息・配当金 418百万円)					
	■営業外費用 ▲3,461百万円 (支払利息 ▲1,176百万円、為替差損 ▲1,486百万円)					
当期利益	■特別損益 ▲2,666百万円 (構造改革費用 ▲1,343百万円、震災損失▲766百万円)					
	■法人税等 ▲2,043百万円 ■少数株主利益 ▲1,080百万円					

(2) 11年3月期 通期 単体経営成績

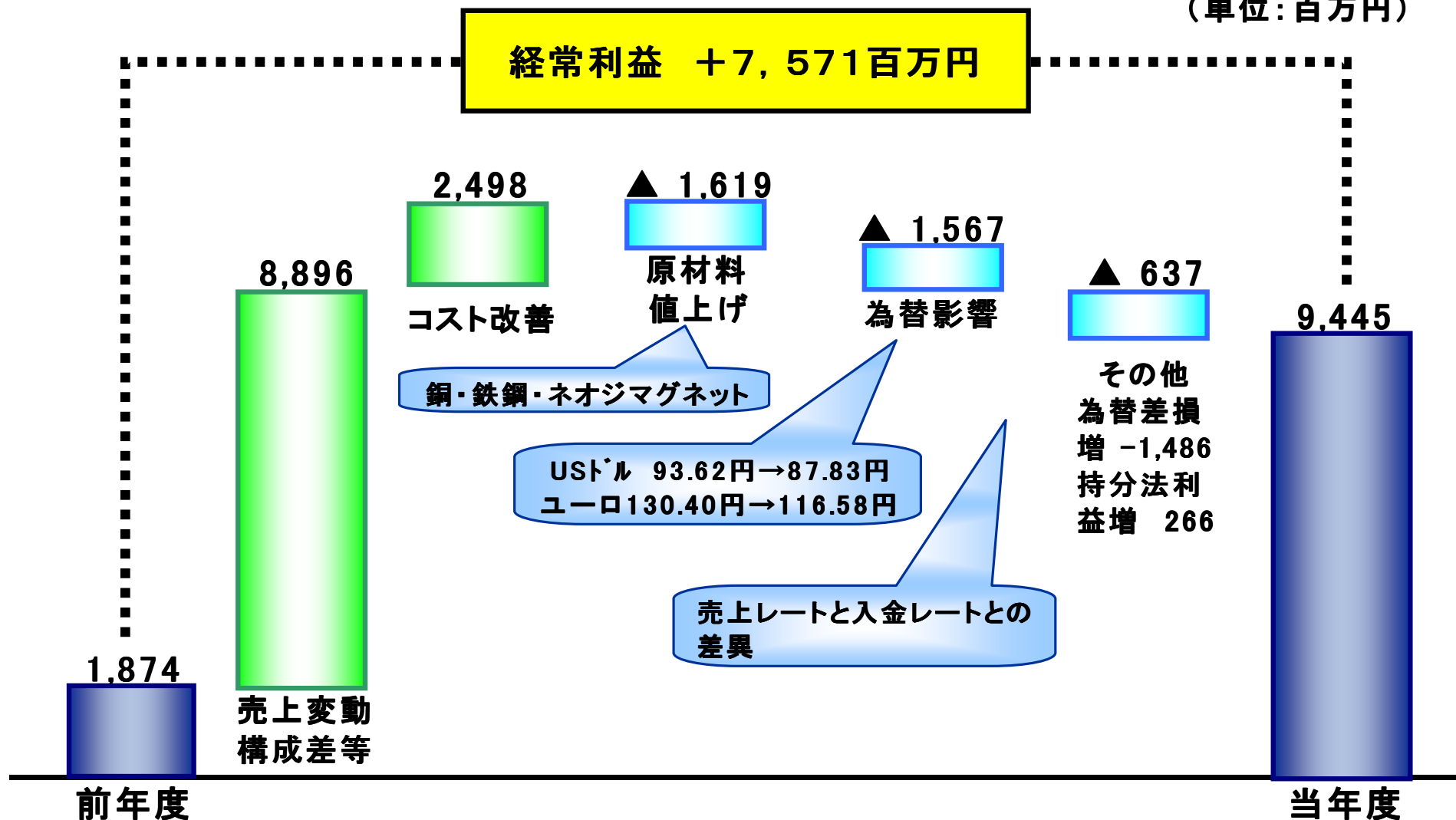
単位：百万円

【単体】	10年3月期実績	11年3月期実績	増減
売上高	111,691	127,184	+ 15,493
営業利益	559	3,495	+ 2,936
経常利益	1,281	3,566	+ 2,285
当期利益	▲580	1,344	+ 1,924

概要		単位：百万円			
売上高	商品売上	105,308 ⇒ 118,315 (+13,007)	ロイヤリティ等	2,211 ⇒ 3,614 (+1,403)	
	設備売上	1,816 ⇒ 2,944 (+1,128)	その他	2,356 ⇒ 2,311 (▲45)	
営業利益	材料費	70,349 ⇒ 77,523 (▲7,174)	人件費	21,710 ⇒ 24,637 (▲2,927)	
	設備原価	1,488 ⇒ 2,695 (▲1,207)	経費他	17,585 ⇒ 18,833 (▲1,248)	
経常利益	■営業外収益 +1,894百万円 (受取配当金 1,283百万円)				
	■営業外費用 ▲1,823百万円 (支払利息 ▲880百万円、為替差損 ▲673百万円)				
当期利益	■特別損益 ▲2,061百万円 (震災損失 ▲728百万円、構造改革費用 ▲1,328百万円)				
	■法人税等 ▲161百万円				

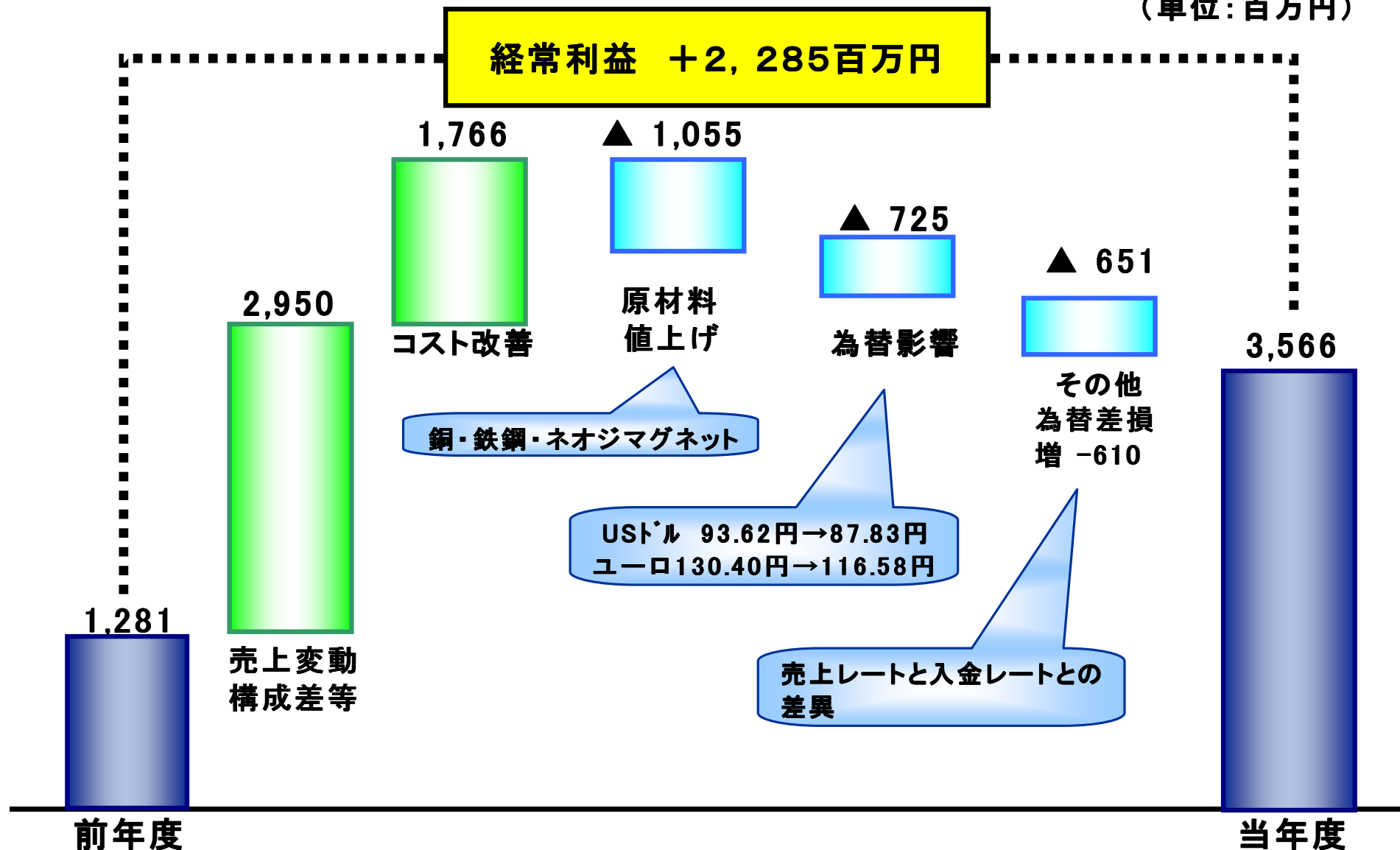
※連結経常利益増減分析

(単位:百万円)



※単体経常利益増減分析

(単位:百万円)



(3) 主要客先への連結販売動向

単位：百万円

	08年3月期 実績	09年3月期 実績	10年3月期 実績	11年3月期 実績	増減 (前期比)	占有率
ホンダ四輪	74,300	65,200	48,700	57,300	8,600	28.9%
ホンダ二輪	28,700	28,800	25,700	36,400	10,700	18.3%
ホンダ計	103,000	94,000	74,400	93,700	19,300	47.2%
日産/ルノー	43,900	32,700	29,800	40,200	10,400	20.3%
その他	72,100	75,300	53,200	64,500	11,300	32.5%
合計	219,000	202,000	157,400	198,400	41,000	100.0%

注：輸送用機器関連事業のみを合算

(※) その他 販売上位客先占有率 (64,500百万円の内訳)

富士重工業	6.6%	スズキ	3.4%	いすゞ	2.0%
三菱自動車	3.8%	マツダ	2.2%	GM	1.8%

(4) 為替の影響(営業損失)

2011年3月期 通期実績			
	想定レート (円)	実勢レート (円)	1円変動した場合の 影響(百万円/年)
USDドル	88.00	87.83	241
ユーロ	130.00	116.58	19

(5) 設備投資

単位:百万円

【設備投資】	10年3月期 通期実績	11年3月期 通期実績	増減
【設備投資】	9,794	9,237	▲557
【減価償却】	12,637	10,906	▲1,731

3. 第9次中期経営計画

(1) 環境認識

自動車業界の変化

- 新興国市場拡大(新中間層拡大) ... BRICs、VISTA
⇒グローバル販売台数増大／廉価・超廉価車市場の拡大
- エネルギー、地球環境
⇒化石燃料から代替燃料へ／EV、HEV、PHEV／小型、軽量
- 国内市場
⇒少子高齢化／消費構造変化(若者の車離れ)／**復興対策**
- 景気回復遅れ／円高(80円/\$)
⇒市場は新興国へ／車体メーカーは海外シフト
- ◆ **一極集中生産・調達のリスク回避**
⇒日本生産の海外シフト加速／調達先の分散化

(2) 第9次中期経営方針



<p>スローガン</p>	<p>グローバルで成長する。 ～連結経営の強化～</p>	
<p>経営方針</p>	<p>1. 圧倒的にQCD競争力の高い商品・部品を開発し、 売上を拡大する。</p>	<p>成長</p>
	<p>2. 商品品質を磨き、市場・顧客の信頼を獲得する。</p>	<p>品質</p>
	<p>3. 連結コスト構造改革により、安定した利益を確保する。</p>	<p>コスト</p>
	<p>4. 仕事のやり方を変え、 グローバルですべてのリードタイムを短縮する。</p>	<p>プロセス 人材</p>

(3) 第9次中期重点課題

1. 成長への玉込め 2.5極化(スモール車、環境車、高級車) + α への対応
 - (1) スモール(廉価車、超廉価車) ⇒ 新興国市場への対応
 - (2) 環境車対応 + 高級車対応
 - (3) 新成長領域(健康、介護)への対応

2. 身の丈経営
 - (1) BEP改善 + 構造改革
 - ① 売上げ、材料費、人件費、経費のバランス見直し
 - ② 構造改革の継続

3. リスク管理
 - (1) 一極集中(生産・調達)のリスク管理と分散

4. 1、2を両立させる為の生産性の大幅な向上

「身の丈経営」は継続し、さらに「成長への玉込め」へシフトする。

◆東日本大震災の影響

【項目】	【詳細】
収益への影響	<ul style="list-style-type: none"> ■売上:単体 3月度の売上が計画比 ▲20% ■震災損失:▲766百万円 (操業停止による固定費振替 ▲290百万円 現状回復費用 ▲476百万円)
材料、部品への影響	<ul style="list-style-type: none"> ■対象地域内仕入先工場数:72(内被災数:24) 仕入先の被災状況把握は完了。緊急で欠品する部材については現在なし。中期レベルで部材未納により、お客様へ納入遅延が発生しないよう対応中。
国内拠点への影響	<ul style="list-style-type: none"> ■福島工場:福島県田村市(原発から41km) 3月14日に一部復旧、22日には通常稼働 ■その他拠点:3月14日には通常稼働
海外拠点への影響	<ul style="list-style-type: none"> ■11年3月期決算における影響なし
電力供給不足への対応	<ul style="list-style-type: none"> ■生産施策:勤務シフトの変更及び稼働日変更 ■開発施策:実験評価設備、工作設備の省エネ施策の推進 ■共通施策:空調、照明、OA機器等の省エネ施策の推進
客先増産への対応	<ul style="list-style-type: none"> ■生産前倒し、工程改善、外注化・現地調達化の推進

mitsuba

株式会社 ミツバ



心 ひろがる技術